

16 関係機関・団体との連携に関する事項

1 校友会・親和会との連携

- 校友会・親和会・大学の三者で連携する事業

校友会及び親和会は、いずれもその設立趣旨に則り、龍谷大学の発展に資するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的としており、龍谷大学の発展に資するため、大学・校友会・親和会の三者による共催事業を展開している。

- 校友会との連携

3 龍谷総合学園との連携

業生）とのネットワークを構築し、龍谷大学(母校)の発展に寄与する関係を醸成することを目的に、龍谷賞（卒業生対象）、校友会賞（在校生）、校友会奨励生、各校友会支部における講演会・交流会を共催する。また卒業生へのキャリアアップ支援も行っていく。

- 親和会との連携

親和会との連携は、本学と保護者との信頼関係を維持するため、保護者への在学生の成績表送付や、成績懇談・就職相談を含む保護者懇談会（29都市）の共催等、保護者への情報提供に努める。また在学生の学修環境の整備、課外活動支援等に対し、親和会からも積極的な協力をいただく。

- 2009年度の特記事項

2009年度は、370周年記念事業として、校友会及び親和会の協力のもと吹奏楽演奏会・公開講演会を8都市で開催する（8都市リレーフォーラム）。卒業生又は保護者にも利用を開放した施設として、2009年4月にセミナーハウス「ともいき荘」を開館する。

2 浄土真宗本願寺派との連携

本法人の設置理念や寄附行為からもわかるとおり、浄土真宗本願寺派との関係は重要である。本法人の発展に係る歴史的経緯を見ても、人的・経済的な側面において浄土真宗本願寺派から様々な支援を受けており、今後も本法人が多様な展開を進めながら社会的支持基盤を確立していくために、浄土真宗本願寺派との連携を強化する。

- 本学370周年記念事業の推進及び親鸞聖人750回大遠忌への協力

本学は創立370周年を迎え、今年度各種記念事業を実施する。また、浄土真宗本願寺派では、2011年に迎える親鸞聖人750回大遠忌に向けて「親鸞聖人750回大恩忌宗門長期振興計画」が策定されている。これらの事業において、双方が協力または積極的な連携により実現が可能な事業について、総合的な調整や意見の集約を行うために「宗学連携推進協議会」を設置しており、2009年度も同協議会において、連携事業等について検討を進めていく。

- 龍谷ミュージアム開設へ向けての協議の推進

2011年4月の龍谷ミュージアムの開設に向けて、宗学連携推進協議会の下に置かれている「龍谷ミュージアム」構想検討委員会を中心に、仏教や本願寺等に関する学術資料や文化財の収集保存、調査研究、公開等に関して、協議を推進する。

- その他連携事業の推進

「親鸞聖人750回大恩忌宗門長期振興計画」に計画がなされている、ビハーラ活動の充実等の社会活動の展開、本願寺門前町の活性化、文化財の保護と活用を目指すデジタルアーカイブ事業等についても、各委員会等に本学の教職員を継続して派遣し、積極的に協力を行う。

親鸞聖人の精神・浄土真宗の教えを建学の精神とする学園が、それぞれの個性を生かしつつ、相互の連携を密にしながら発展することを目的に「龍谷総合学園」が組織されており、現在、24学校法人63校（6大学、2短期大学、25高等学校、14中学校、3小学校、13幼稚園）が加盟している。

- 学校間連携推進委員会等への参画

加盟校の学校間連携に関する諸事業を統括する中核機関として、「龍谷総合学園学校間連携推進委員会」が設置されている。同委員会は、生徒・学生及び教職員の交流を通じ、総合学園と各学校の教育・学習活動の活性化を促すための事業の企画・推進を目的としており、本学は龍谷総合学園の中心校として、事業の企画・推進に携わっていく。

また、2009年度の事業として計画されている、各種研修会、研究会、協議会等にも積極的に参加し、龍谷総合学園の発展に寄与できるよう努める。

- 龍谷アドバンスト・プロジェクトへの協力

今年度、龍谷総合学園が高大連携事業として、e-learningによる教育素材を活用しながら、学校間の相互連携・人的交流を図りつつ、生徒の主体性を支援することを目的に「龍谷アドバンスト・プロジェクト2009」を実施することとなった。

本学は、昨年度から同プロジェクトの実施に向けての協力を行っており、本年度においては、大学としてその事業を協力、支援することとし担当講師や学生サポーターの派遣、科目提供や合宿研修時の指導等の協力を行う。

4 仏教系大学会議との連携

本学が加盟している「仏教系大学会議」は現在、68の大学・短期大学で組織されており、建学の理念を仏教におく全国の仏教系大学が、それぞれの個性を尊重しつつ各大学間の連携を密にし、各大学の充実発展を図るとともに高等教育機関としての社会的責務を遂行することを設立の目的としている。

- 幹事校として参画

本学は、1994年の設立当初より幹事校（愛知学院大学、大谷大学、高野山大学、駒澤大学、淑徳短期大学、大正大学、兵庫大学、佛教大学、立正大学、龍谷大学）として参画しており、幹事である学長が本会議の運営に主体的に携わっている。

本会議は毎年度、研修会の開催及び機関紙「如是我聞」の発刊を行っており、2009年度においては、代表幹事校で

ある大谷大学を中心に、立正大学を研修担当校、仏教大学を研修会場担当校として各事業の実施を予定している。今後も、本会議の趣旨を踏まえながら各事業に積極的に携わり、各大学との連携を強化していくこととする。

5 その他（私立大学連盟／大学コンソーシアム京都） **<日本私立大学連盟>**

日本私立大学連盟（以下「連盟」という）は、私立大学の振興等を目的として設置された社団法人であり、現在124の大学が加盟している。本学は、教育研究環境の向上と経営基盤の確立に資することを目的に加盟しており、連盟の方向性や情報を敏速かつ的確に収集することに努めている。

● 諸委員等の派遣と研修事業等への参加

連盟の方向性や情報を敏速かつ適格に収集するため、2009年度においても、従来どおり諸委員等の派遣を行うとともに、連盟の実施する各種研修事業等に、必要性を判断しながら、積極的に本学職員を参加させることとする。

<大学コンソーシアム京都>

大学コンソーシアム京都（以下「コンソーシアム」という）は、「大学のまち・京都」の充実・発展を目的に、大学間連携事業や産官学地域連携事業を展開する財団法人であり、京都地域の約50大学が加盟している。本学は、コンソーシアムの設置当初から加盟しており、運営に主体的に携わっている。

● コンソーシアムが運営する単位互換制度への本学学生の派遣と他大学学生・一般市民の受入

本学学生及びコンソーシアムに所属する他大学学生に対し、多様な学習機会を提供するため、コンソーシアムが実施する単位互換制度（2008年度：本学からの派遣学生数385名、他大学からの受入学生数441名）やインターンシップ事業（2008年度：本学の参加学生数142名）を積極的に活用している。2009年度においても、引き続き、積極的に活用すべく推進していく。

● コンソーシアム運営に対する本学の取り組み

従来どおりコンソーシアムの運営に携わることとし、専任事務職員を外向させるとともに、必要に応じて諸委員等を派遣する。